

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK18279
SK18280

③施設名等

名称：	児童養護施設 マリア園
施設長氏名：	安河内 慎二
定員：	46名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	長崎市南山手町16-33
T E L：	095-822-1583
U R L：	http://minamiyamatekai.or.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	2014.08.08
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人 南山手会
職員数 常勤職員：	33名
職員数 非常勤職員：	10名
有資格職員の名称(ア)	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	7名
有資格職員の名称(イ)	精神保健福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(ウ)	公認心理師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称(エ)	保育士/指導員
上記有資格職員の人数：	17名
有資格職員の名称(オ)	栄養士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称(カ)	調理員
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要(ア) 居室数：	本園：5ホーム個室30室、地域小規模児童養護施設：1ホーム2人室3室
施設設備の概要(イ) 設備等：	地域交流室、倉庫棟、児童家庭支援センター併設
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

④理念・基本方針

<p>【基本理念】 ひとつの心、ひとつの魂</p> <p>【基本方針】 1.一人ひとりの人権を尊重する 2.一人ひとりの自立を援助する 3.一人ひとりの家族との関わりを大切にする 4.一人一人は地域社会の一員である</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>職員研修はカトリックの精神を基本とした養育に努める力を養うとともに、児童養護施設職員の専門性を理解し、職員自らが研鑽に努めるよう支援する。</p> <p>(関係機関が実施する研修及び自主研修の奨励、園内研修の充実[新任、中堅、上級職員別の研修等]…など)</p> <p>職員の調理技術の向上に努める取り組みとして、週3回程度、厨房より食材と献立の提供を受け、ホーム毎に調理を行っている(半調理及び全調理)他、食材の調達や献立についてもホーム毎に行う自由献立を予定している。これは「食育」の一環として、子ども達と一緒に食材を買う事や、実際に調理を体験することを目的としているほか、家庭的な食事(調理)場面を見せる事による情操面や人格形成への好影響を期待している。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア) 契約日(開始日)	2020/7/13
評価実施期間(イ) 評価結果確定日	2021/2/4
前回の受審時期(評価結果確定年度)	平成29年度

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>「ひとつ」「一人ひとり」がキーワードとなっている“マリア園の心”として、基本理念、基本方針、援助方針、カトリックの教え、地域に根差している施設名称、役割等は前法人から引き継いでいる。</p> <p>新しい施設に移転したことから写真を変更し、ホームページ構成の見直しを行っている。“マリア園の心”を記載した冊子は職員皆に渡しており、新人研修の中ではテーマに挙げ実施している。この理念等が子どもや保護者たちに伝わっているかどうかは、各棟の担当職員間で差異が生じる部分がある。また、この冊子は保護者には渡していない。</p> <p>今後、配付用パンフレット制作や保護者へ送付するニュースレターの中で、共有を図っていく予定である。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>平成29年の家庭的擁護推進計画において現状と課題の整理、小規模化及び地域分散化に向けた将来像等をまとめている。また、令和2年には高機能化及び多機能化・機能転換小規模かつ地域分散化計画を作成する過程において、社会福祉事業の動向や地域の各種福祉計画の動向や内容を把握している。コスト分析に関しては、税理士等の外部専門家の支援を受け、毎月の試算表をもとに把握している。</p>	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【コメント】		
<p>新しい施設へ移転し、組織体制、職員体制、人材育成等を模索しながら構築している状況である。ここ数年の課題は人材確保だと考えている。また、独立棟を今後どう活用していくかも試行錯誤を重ねている点である。</p> <p>職員体制としては、中堅職員がやや少ない状況下で、若手や新人職員をどう育成していくかを内部研修を実施しながらトライ＆エラーで検討している。昨年度の12月から現場に関わっている事務局長が理事に就任し、理事会にも参加するようになったことから、更に解決・改善に向けた具体的な動きが期待できる。</p> <p>経営や財務状況の報告を行い、他役員から直接フィードバックを受ける体制である。ただし、職員への周知はまだ不十分だと考えている。今後の取組みに期待したい。</p>		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】		
<p>令和2年に高機能化及び多機能化・機能転換小規模かつ地域分散化計画を作成しており、その中で、中・長期計画となる内容も策定している。この計画は、おおまかな部分も毎年度、3月に見直している。現状、人員配置以上の職員体制を整えているが、今後も継続的に人材確保は必須と考えている。</p> <p>また、地域小規模の施設をもう1棟設置することを考えているが、大家や地域住民の理解を得られるよう働きかけていくのは、なかなか大変で時間を要することである。</p> <p>計画は文書として記載しているが、具体的に数値を使った目標設定に関しては、まだまだ不十分どころがある。今後の取組みに期待したい。</p>		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】		
<p>中・長期計画から単年度の事業計画に内容を反映している部分としては、家庭的養育の内容はあるものの、経営や収支計画等の財務の部分となると不十分である。</p> <p>単年度の事業計画書、事業報告書は、多岐の分野に関する内容を明確にまとめており、詳しい内容となっている。</p> <p>小舎化したばかりであるため、今後、少しずつ実績データを蓄積していき、計画の中により具体的な数値目標や成果等を記載し、評価が行えるよう期待したい。</p>		

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	

【コメント】

事業計画の各項目の内容による部分はあるが、すべてを職員に周知できている訳では無いが、職員の意見を吸い上げて作成することに努めている。例えば、業務の内容によって分けている各班ごとに計画の内容を所属メンバーで検討し、提出してもらっている。

ただし、現状、班は以前の組織を引き継いでいる部分があり、動きが乏しい班や分野が重複している場合は、統合・廃止しながら、現状にあった組織作りを行っていくこととしている。委員会は、職位が上位のメンバーで構成しており、組織全体を総括的に評価する組織となっている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画書、事業報告書は閲覧簿として、施設内に備えているが、子どもたちや保護者に周知されるまでには至っていない。周知の方法や子どもたちが分かるように資料を準備する等、一人ひとりが実施している事業に参画しているという意識が少しでも生まれるよう、工夫を期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

生活部業務改善班からだけでなく、棟ごとの職員会議の中において業務改善テーマを発表している。業務改善報告書の内容は、改善と報告についてはそれぞれ別紙でまとめており、PDCAの流れに沿って検討している。

各棟にて掲げた業務改善テーマは、達成するための期間を特に定めず、達成した段階で次の目標を考えて再設定するという持続的な目標達成の仕組みが出来ている。

また、子どもたちの要望は、直接、統括職員のもとへ集まってくることもある。更に職員は、第三者評価事業の自己評価表を使って、年1回自らの支援を見直す取組を行っている。

小舎化、地域小規模の設置を行って間もないため、組織的な評価については、これから再構築していくという認識が確認できる。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

今回で3回目の第三者評価となっている。毎回の評価結果に関しては、職員会議にて発表し職員共有を図っている。結果は真摯に受け止め、例えばマニュアルやパンフレットの作成に取り組み、より良い自立支援に繋げている。ただし、その評価結果を踏まえて、より良い支援に繋げようとする取組の過程が確認できる資料や記録等がないため、文書等により見える化することを期待したい。第三者評価の結果は、ワムネットにて公表している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

園長は職員会議の場に参加し、職員にとって有用な話題や情報を話すことがあり、今年度は新型コロナ禍における対応について話していることが議事録から確認できる。また、職員の守秘義務誓約書等は園長名で文書を作成している。更に、職務分担表に園長の役割を詳細に記している。不在時の窓口は統括であるが、園長に連絡、報告を随時行っている。不在時の権限委任については、文書中で確認することはできない。不要、必要を含め検討に期待したい。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設新設時には、行政との連絡調整を密に行い、公正かつ法令に則り入札を行い、建築、移転に至っている。園長は、全国児童養護施設協議会(以降、全養協)の理事であり、最新の情報を早く入手できる環境にある。入手した情報は、施設内の会議等において、時事的な話題を含め、職員との共有を図ると共に注意喚起を行っている。法人内の他の役員その他、園長が培ってきた人脈やネットワークを活用して情報を得たり、協力を依頼できる関係づくりが出来ている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

内部研修において、園長が講師を担当することがある。制度上の改正や大きな動きがあった時にも臨時に園内研修を実施して、職員へ情報提供し共有を図るよう努めている。

園長は、ケース・カンファレンスに同席しており、養護や支援に関して「子どもたちの声に、より耳を傾けるように」「職員間における言葉遣いには気をつけるように」など園の理念に沿った重要な事項を繰り返し伝え、浸透を図っている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

園長は理事長であり、経営や人事等に関わっている。昨今、新しい施設への移転や地域小規模施設の立ち上げを行っている。役割分担を行っているため、細かい部分は、事務局長や統括が中心となって動いている。例えば、支援の記録をエクセルでプログラムを組み、日報から連動できる仕組みを作る等、業務改善による時短を積極的に行っている。若い職員の勤務継続に繋がるような取組みが必須と考えており、現在、リフレッシュ休暇の導入、子育て中の女性職員への対応等を検討している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(5種別共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>施設基準でみると職員数は満たしているが、敢えてフリーに動ける職員を雇用し、余裕ある現場となるよう人員配置を行っている。ただし、中堅職員が少ないため、5年後、10年後を想定し若手職員を雇用して、一人前に育成していかなければならないと考えている。よって、人材獲得は今後も継続の課題と捉えており、福祉職の合同説明会への参加、職員が講師として関係している大学へのアプローチ、実習生への声掛けを行っている。学生ボランティアで訪問した学生が、就職した例もある。この他、ホームページにおいて、人材募集のお知らせを掲示を行っている。現在、看護師はいないため、採用を検討している。</p>		
②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>“マリア園の心”には、職員への心得を明記している。 就業規則に人事基準を定めており、採用時に説明して同意を得ている。 入職後2年間は、園長との個別面談がある他、次年度の意向を聞き取るに留まっている。 研修計画は、年度始めに全職員を対象に作成しており、新任、中堅、上級職員別に内部研修計画を立てて2ヶ月に1度実施している。 職員処遇として、休憩を確実に取れるように改善しようと考えており、残業についても上級職員が定時に帰宅するよう促している。 子どもとの外出も職員は休みであっても、一緒に出掛けている現状にある。有給休暇取得は高く5連休は確実に取得している。</p>		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

労務管理責任者は園長である。
 入職後2年間は園長との個別面談があり、2年以降の職員は次年度の意向を聞き取るに留まっている。ただし、職員の状態の変化を見て、随時相談に乗っている。
 小舎制になり、断続勤務は減少しており、仕事にメリハリはつけるよう伝えている。
 子どもへの支援を最優先するために、職員は公休であっても、子どもと一緒に外出している現状がある。そのため、ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組は現時点では困難な状況であることが見てとれる。
 既にさまざまなアイデアが聞き取れるため、実現に向けて更なる取組みに期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

園の理念・基本方針を明示した“マリア園の心”には、職員への心得を明記している。
 就業規則に人事基準を定めており、採用時に説明して同意を得ている。
 入職後2年間は、園長との個別面談がある他、次年度の意向を聞き取るに留まっている。ただし、職員の状態の変化を見て、随時相談に乗っている。
 職員処遇として、休憩を確実に取れるように改善しようと考えており、残業についても上級職員が定時に帰宅するよう促している。
 今年度、新規に処遇職員7人確保しており、次年度の採用も予定者がいるなど、人材の確保に努めている。ホームページには求人内容を詳細に記しており、ホームページを見てからの問い合わせもある。
 今後は、連日有給休暇を取得するリフレッシュ休暇の導入検討など職員にとって働きやすく魅力ある職場となるよう取り組んでいることが確認できる。
 育児、介護休暇は就業規則の謳っているものの取得した事例はなく、出産後は退職となるケースが多い。また、子育てしながらの勤務は、本人が他の職員への遠慮があることが考えられる。
 職員一人ひとりの働きやすい職場環境づくり、働き続けることのできる環境づくりに向けて、更なる検討、工夫に期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

園の求人には、必要とする専門資格は明示している。
 園では、キャリアパスは特に設定していないものの、研修計画は、年度始めに全職員を対象に作成している。新任、中堅、上級職員別に内部研修計画を立てて2ヶ月に1度実施しているが、大舎から小舎へ移行したばかりで、職員一人ひとりの育成に向けた取組みとしては、仕組みの構築はこれからである。
 更に今後は、入職後の資格取得について法人としてサポートが必要と考えている。今後の取組みが望まれる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

園では、研修班を設置しており、研修計画に関しては研修班が企画運営している。
 新任研修は昨年度からスタートしており、研修後は、本人が報告書を提出し、育成担当が助言を記入し本人に返却する仕組みがある。更に、振り返りノートと称するものを利用して、日々の養育支援の中で気づいたことを記しており、各リーダーが助言している。
 今後は、新任職員だけでなく、中堅、上級職員にも同様の仕組みが必要と考えており、仕組みの構築が望まれる。
 職員同士の交流や情報共有の機会として、職員会議、朝礼の他、毎週水曜日は朝から作業する日としており、草むしりなどの作業を行った後、お茶を飲みながら談話する時間を設けている。
 園の特徴的な取組みとして、毎年3月に外部研修報告を行っており、気になった研修に職員が投票して更にその研修を実施している。
 今後は、これまで実施していなかった接遇研修を企画し実施する予定であり、職員一人ひとりの教育・研修の機会を確保し、組織力の向上に繋がることに期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【コメント】		
<p>実習生の受入れは積極的に行っており、受入れマニュアルは実習オリエンテーションを用いて、基本姿勢を明示していることが確認できる。</p> <p>昨年度は、15件の実績がある。実習は実習生が自分で目標を立てて、毎日、実習記録を確認する流れであり、開始時に園長が講話を行っている。実習依頼先の学校から教員の巡回指導があり、連携して進めている。</p> <p>実習から当法人の採用試験を受験し、採用に繋がることもあるため園では積極的に実習生の養育・支援に取り組んでいる。</p>		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	
【コメント】		
<p>園の財務諸表、事業計画・報告、第三者評価結果をワムネットに掲載しており、適切に公開されていることが確認できる。</p> <p>園は、自治会に加入しており、現状では園の理念やビジョン等について明示したり説明は行っていないものの、今後はニュースレターやパンフレット作成し、地域への配付等を予定している。</p> <p>苦情解決の流れは作成し、苦情解決委員会設置規則を整備しているものの、苦情解決の公表は行っていない。今後の検討、取組みが望まれる。</p>		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】		
<p>園の経理規程には、事務、経理、取引等に関する規程を明示しており、職務分掌表にて、担当者を明確にしていることが確認できる。</p> <p>財務に関しては税理士事務所と契約しており、月に一回訪問があり監査支援体制が確立している。</p> <p>弁護士、社会保険労務士との契約はないため、労務管理や対外的な問題に対して外部の専門家の協力体制を更に強化するためにも今後の検討が望まれる。</p>		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>“マリア園の心”に記している基本理念、基本方針、援助方針に地域との交流を明示すると共に援助指針に「一人ひとは地域社会の一員である」と記している。園の職員は、小学校PTAの役員、地域のまちづくり組織“グラバーズネットワーク”にも参画している他、地域の育成協議会理事に就任し活動している。</p> <p>子どもと職員が地域行事の祭りに参加したり、地域公民館での高齢者の食事会の食事づくりに職員が参加している。</p> <p>買い物は地域の商店を利用している他、近隣の公民館は地域行事の核となるため、餅つき、縁日などさまざまな行事に参加している。</p> <p>更に、資源回収は子どもも一緒に行っており、回収協力にて得た対価をお楽しみ会などに有効に利用している。</p> <p>また、園は管轄の警察署と連携を図り、少年サポートセンターから携帯電話の使用について講話がある他、関連する問題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>以前の園舎は、学校の友人等が遊びに来やすい環境であったが、移転後の新園への来所は今まだ事例がない。園では、今後は以前と同じように遊びに来る友人が増えると期待している。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>ボランティア受入れの基本姿勢は、マニュアルに明記している。園の記録からさまざまなボランティア受け入れが確認できる。</p> <p>ボランティアに対しては、守秘義務に関する誓約書を取り、子どもたちの個人情報について注意喚起している。</p> <p>学期ごとに小中学生と情報交換会を行っている他、地域の大学の学生ボランティアは多く、特に同施設内の児童家庭支援センター“びいどろ”（以降、“びいどろ”）の学習ボランティアや支援に来ていることが確認できる。</p>	

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

該当する関係機関や団体のリストは作成している。個々の子どもの状況に対応できる社会資源は、文書化でなく職員間で共有している。
地域の自治会活動として、防災マップ作成に職員が参加する他、子どもを見守る安心安全パトロールに参加している。法人内には不登校の児童への支援を行う“びいどろ”がある。
地域との関係構築はできており、定期的な会議等に参加する他、共通の問題解決に向けて、協働し活動を行っていることが見てとれる。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

法人が運営している“びいどろ”は、地域の子育て支援や不登校の子どもの居場所づくりなど、地域に役立つ活動を行っている。
また、中学校の育成協議会の理事の他、市や市社会福祉協議会と連携したレスキュー事業にも協力しており、地域の福祉ニーズや生活課題を把握し取り組んでいることは園の特長である。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

園は、生活困窮者レスキュー事業に取り組んでおり、市福祉課、市社会福祉協議会からの依頼で、1ヶ月の支援を行っている。
自治会に参加する中で、園の活動を紹介する機会を得ている他、街頭宣伝やラジオPRなど里親支援の啓発活動を行っている。
更に、台風等、災害時の避難所として園の施設を利用できることを自治会に伝えているなど、地域の福祉ニーズに基づく公益的活動を行っていることが確認できる。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
<p>倫理については、“マリア園の心”の中に全て記している。新任研修と昨年度から実施している中堅、上級職員向けの研修内容は、“マリア園の心”を基盤に企画している。職員会議でも読み上げて理解を図っている。</p> <p>園では、人権、虐待等の研修を実施している。評価は定期的ではないが言葉遣い等、気づいた時に職員同士指摘している。</p> <p>園では、大舎制の時は多くの目で互いに見ていたが、小舎制になって多くの目で見ることが減っており、その点は危機感を持ち、検討、対策に努めている。</p>		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	
【コメント】		
<p>職員は、子どもの部屋に入る際には必ずノックし、子どもの承諾を得て入室している。また、子ども宛ての手紙は勝手に開封せず、本人に渡しており保管を希望する子どもには園にて保管し支援している。</p> <p>女子棟では、外部の視線を避けるため、洗濯した下着等は室内または個室に干している。</p> <p>プライバシー保護について、子ども等に周知する方法として、特別に時間を設けて講義するなどの取組みはないものの、日々の生活の会話で伝えている。園として子ども全員に向けて説明する必要があるか検討することを期待したい。</p>		

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	
①	<p>30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p>
	<p>【コメント】</p> <p>園の理念・基本方針を明記した“マリア園の心”とは別に現在パンフレットを作成している。更に、ニュースレターは今年中に発行するよう進めている。</p> <p>入所が決まった子どもが見学を訪れた時には、日課や園での生活を説明している。状況によっては、事前に保護者が訪れ見学することもある。これまで見学時は口頭での説明が主であったが、現在見直しの最中である。また、ホームページは職員求人や“びいどろ”の情報更新が主であり、園の情報は必要に応じて改定している。</p>
②	<p>31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。</p> <p><input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。</p>
	<p>【コメント】</p> <p>入所については子ども家庭支援センター（以降、センター）と連絡を取り、準備を始めている。入所の際は、子どもが安心して生活できるような環境づくりを行い、既に生活している子どもたちに事前に入所する子どものことについて説明している。療育手帳を持っている子どももおり、基本的には他の子どもと同様に対応し、状況を把握している。子どもの支援方針はセンターから送られてくるため担当職員に伝え、どういう関わりをすべきかを考えている。その状況を見ながら、自立支援計画を考える仕組みがある。</p>
③	<p>32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。</p>
	<p>【コメント】</p> <p>児童心理治療施設への措置変更は無く、乳児院からの措置変更は事例がある。乳児院からの措置変更では、いきなりではなく、慣れるまでの期間を作り戸惑う子どもの思いに寄り添い配慮している。保護者にはセンター中心のアフターケアと随時の家庭訪問によって関係を保ち支援している。</p> <p>マリア園は、子どもの卒園後1、2年は様子伺いということで連絡を取っており、その後は、子どもから連絡があると対応している。今回の園移転は、卒園した子ども、働いていた職員たち100人ほどが集う機会となっている。</p>

		第三者 評価結果
(3)	子どもの満足の向上に努めている。	
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

年2回、炊事場が嗜好調査をアンケートにて実施している他、子どもの誕生会の時には本人の好きなメニューを調理し一緒にお祝いしている。また、子ども個人との面談は進路相談等を含めて計画的に行うと共に面談の必要性がある場合は随時行っている。園では、グループごとに月1回のミーティングを行う他、夕食の時に1ヶ月の目標を決めている。

高校生は、学校と園が認めた場合にアルバイトが出来るというルールがある。アルバイト先は本人が見つめてくることがほとんどであり、園としては退園後のためにも社会経験を積む機会と捉えている。

テレビを見る時間等のルール決め等もミーティングで決定しており、職員は子どもたちの自主性を大切に支援している。

(4)	子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

“ようぼうばこ”は事務棟の事務室に設置しており、友だちと喧嘩したことなどのメモが入る程度である。ほとんどは、担当職員に直接相談に来ているが、小舎制になってからは少なくなったと職員は感じている。

園では、ミーティングの場を利用して子どもに向けて、“ようぼうばこ”の使い方や書き方等を説明している。更に、苦情解決の仕組みについては、口頭で子どもに話している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちはいつでも相談してくるため、他の子どもに気づかれないよう1対1で対応できるスタッフルームや各子どもの部屋等で配慮している。相談方法や自由に相手を選べるなどを記した文書の配付や掲示まではしていない。家庭支援専門相談員や心理士に相談に行く子どももいる。

保護者からの場合は、事務棟の一室を使って相談を受けることがある。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

相談や意見の内容は、業務日誌に記録している以外に特別に記録類を作成してはいないが、統括や家庭支援専門相談員へ口頭で報告している。家庭支援専門相談員は相談を受けた内容を個別に記録している。内容によっては、継続して検討、支援が必要な事例や今後に役立つことができる事例もあり、まとめた記録がある方が良いケースもあり、その時は記録を残している。
対応マニュアルは備えていない。今後の取組みに期待したい。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメントの責任者は園長である。
担当者は、自衛消防隊研修課程を受講しており、施設としては、事件・事故対応マニュアルを整備している。マニュアルは、事件、事故、災害の種別ごとに予防、対応手順等を詳細に記していることが、確認できる。事故報告書は、保健日誌に記録し職員間で回覧し確認している。
現状ではリスクマネジメントに関する研修は特になく、ヒヤリハット報告等の収集・分析までは至っていない。今後は、子どもの安心・安全な生活に向けて研修や事例収集等の取組みが待たれる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

現在は、保健班が園内の感染症対策に取り組んでいる。
 食中毒やインフルエンザ予防について手洗い、うがいのポスターを作り、啓発している。
 新型コロナウイルス予防対策として、子どもと職員に手洗いやアルコール消毒、うがいの励行の他、毎朝の検温を実施しており、部外者の訪問には、検温とアルコール消毒、連絡先の記入をルールとして徹底し、予防に努めていることが見てとれる。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

災害時のマニュアルを作成しており、年2回消防避難訓練を行っている。
 避難時に持ち出す物をリスト化している他、防災用バッグを整備している。
 また、災害時に火が使える時のためにカセットコンロを購入すると共に、5日分の備蓄食料品を準備している。賞味期限が近まった分は、食事に利用している。
 地域小規模ホームは位置的に防災、不審者対応等を見直し、安心安全な生活となるよう努めているが、新人職員が増えたため、現在見直している。
 事業継続計画の作成は、未着手であり今後の作成となる。
 園は、社会福祉法人で組織する“福祉専門職で構成する長崎県災害派遣福祉チーム（長崎DCAT）”に参画しており、県での講習を講師を担ってオンラインで行った実績がある。
 安否確認の方法は、小中学生は学校と連絡を取る他、高校生は携帯電話で確認している。夜10時以降に連絡が取れない場合は、警察に連絡するルールがあり職員に周知しているなど、組織的に取り組んでいることが確認できる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	
【コメント】		
<p>現状では、全国児童養護施設協議会が発行している「この子を受け止めて育てるために」を基本としている。養育の手引書ともなっており、全職員が所持し日々の養育支援に役立てている。</p> <p>一日の生活の流れは各ホームで作成して、子どもも職員もそのルールに沿って、生活している。</p> <p>園としての標準的な実施方法は、一日の生活の流れに留まっているため、各ホームでの独自性も生かしつつ、園としてのルールが必要であると考えている職員の声も聞かれる。今後の取組みに期待したい。</p>		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	
【コメント】		
<p>小舎制への移行、地域小規模ホームの開設等、取り巻く環境の変化に伴い、園の標準的な実施方法の作成や見直しは今後、取組みを期待したい点である。</p> <p>検証、見直しを定期的に行っていくためには、日頃から職員は意識して、予防の観点からも事象や意見等の収集を行っていくことが望ましい。</p>		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
【コメント】		
<p>職員は、子どもの様子から自立支援の目標、課題をピックアップしており、アセスメントした内容は日誌に記録している。計画は“生活”“学習”“社会性”“家庭環境調整”の4項目にて構成しており、計画策定会議には統括、主任、心理、担任、園長が出席している。</p> <p>自立支援計画は前年度の担当職員が作成し、1年間の計画となっている。</p> <p>職員は、子ども自身の意思をしっかりと聞き取る他、保護者の意向、学校からの指導、センターから情報などをアセスメントに役立てている。</p>		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は前年度の職員が作成し、1年間の計画となっている。4月に作成し、10、11月に見直し、達成している場合など、年度途中で新しく計画を作成することもある。
記録作成は職員がどう介入し、どう助言したかに気を付けて具体的に記すよう努めている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

これまで園では各ホームでの記録は保育士日誌であり、日誌からケース記録に転記していたが、今年度から共有サーバーにアップし、パソコンで情報を園として集約するシステムを構築している。職員誰もがタイムロスがなく確認できるシステムの整備は特筆すべき点である。
今後はソフトを活用しながら、更に整備するよう検討が始まっており、職員の業務の効率化、記録作成の負担軽減に役立つと大いに期待できる。
様式は定期的な見直しを行っており、ケース記録はスタンダードな記録様式を設置しており、職員に記録方法の周知を図っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

記録管理の責任者は園長である。
 個人情報保護法の下、個人情報管理規程、特定個人情報等取扱規程を整備しており、マイナンバー管理は職員、子どももどちらも含まれている。
 ただし、園では、個人情報の取り扱いに関する研修は行っておらず、現場では研修の必要性を感じている。
 今後の検討、実施に向けた取組みが望まれる。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護については、“マリア園の心”に記載している。園には、犯罪や非行から立ち直るためのプログラムを準備しており、職員は子どもが通常の生活に対応できるよう、レジリエンスを活かしながら乗り越えていけるよう働きかけている。
 園では、子どもを褒める、受け入れることを職員に意識付けしており、職員研修は充実している。小舎制となり、職員は子どもの距離が近くなったと感じている。近くなったからこそ、自我をぶつけてくることが多くなっており、周りからは見えにくい部分もある。心理士と各ホームの月1回以上の情報共有は重要であり、職員の相談を受ける場ともなっている。園の子どもの権利擁護に関する取組みは優れた点と言える。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

年初めに子どもたちと職員で一年間の目標を決めている。園では、こどもの権利ノートを子どもたちに配付している他、新たな取組みとして昨年子どもへのアンケート調査を行っている。アンケートの自由欄に子どもたちからの多くの記載があり、その情報を公開すると共におこづかいを上げて欲しいという要求は改善している。アンケートから出てきている意見については統括等に挙げているが、現段階ではまだ返答が返って来ていない段階である。月に1回程度、情操教育の一環として神様タイムを設けており、参加は子どもたちそれぞれの意思に任せている。職員は内部研修で学んだことを活かし、子どもたちと接している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

年に数回、心理士が全員の子どもの話を聴く場を設定している他、定期的に訪れる子どももいる。心理士は、職員と共有が必要な子どもの情報はカンファレンス時に伝えており、職員は情報を基に支援に繋げている。本人が生き立ちや事実を知りたいと申し出た場合は、職員間で本人の発達状況等を見極めながら、伝えるよう努めている。伝えたあとのフォローも職員間で情報共有しながら行っている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自ら訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

子どもに対する不適切なかかわりの防止について、被措置児童等虐待対応マニュアルを設置し、園内研修で学ぶ機会を設けている。

運営管理規定に虐待の禁止を謳っており、就業規則の懲戒解雇欄に記載しているなど、体制を整えていることが確認できる。

園では、子どもが自ら訴えることができるよう、まずは相談できる職員となるよう子どもとの信頼関係構築が重要であると考えており、心理士や“びいどろ”職員などが相談相手となることも伝えている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

月1回各棟毎に、子どもたちが集い自分たちの生活のことや目標等を話し合い、意見を出し合うミーティングを実施している。

園では、小舎制に移行する中で棟毎に取組みに違いが出ているが、各棟の子どもたちの個性が出ていると受け止めている。子どもの金銭管理については、用途を制限している訳ではなく、計画的な使い方や正しい金銭感覚を持つための支援の一環として、職員が管理している。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

職員は小さな子どもに寄り添うと共に全ての子どもの様子を見ながら、声を掛けている。統括が本人の思いを聞くために子どもと面談する機会を設けることもある。

実父、実母に会いたいという要望が表出した場合は、親権者である保護者と相談し、会えるよう支援している。また、センターを通して調整している。場合によっては、調整外泊交流シートを用い、自宅に戻った時の様子を保護者が記入して提出している。

園では、家庭支援記録、早期課程復帰支援計画などを整備し、子どもの家庭復帰に向けて支援している。

近年は、就職を機に退所した子どもが、すぐ仕事を辞めるケースが増えており、職員が本人と会うために出向き、フォローする事例が多くなっている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

職員は、退所予定の子どもと一緒に市役所に出向き、行政手続きを体験するよう支援している。更に、退所後に困ることがないように、公共交通機関の使い方や銀行窓口等での手続きの仕方など一般常識を教える機会を設けている。

近年事例はないが、以前は個別の部屋で生活訓練を行っていたことがある。訓練を体験した子どもからは、集団生活から1人になる大変さや急に一人になることの寂しさが感じられてよかったとの感想もある。

園では、特に幼い時期に入園した子どもは、常識的なことを経験していない場合もあるとして、“びいどろ”でフォローしている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>園では、大舎制から小舎制に変わり、子どもたちが分散して生活している。そのため職員は、時間的制約はあるものの、担当する子ども一人ひとりに深く関わりたいと考え、子どもの生き立ち、生育歴などを基に子どもの心に寄り添った養育支援に努めている。</p> <p>子どもの心が乱れた時は部屋に閉じこもり、口を利かなくなることが多く、担当職員が様子を見ながら、統括や主任、心理士への相談している。それでも難しい場合は、センターと連携して対応しており、入所時にその入所理由を子どもたちに伝えて、理解を得られるよう話をすることに努めている。職員は、普段の関わりが重要であると考え、日々の支援に努めている。</p> <p>心理士は、心理療法室にて子どもの様子を見ながら、子どもの思い等を職員に伝えており、園内での協力体制が見てとれる。</p>		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>各ホームでの生活は、一日の流れのルールがあり、子どもたちは基本的ルールを守りながら生活している。職員は、ホームでの食事や睡眠、入浴、排泄など基本的欲求に応えるべく、子どもの希望や様子を見ながら支援している。幼児から高校生までが一緒に暮らす中では、職員は幼児の世話に時間を費やすことが多く、中高生との時間を取りたいと考えている。</p> <p>親との交流が持てない子が多いため、外泊ができない現状であり、職員が深くかかわる覚悟を決めて支援している。</p> <p>各ホームでは、小学生低学年の子どもは職員の気配を感じることができる部屋で就寝しており、夜目覚めた時に職員が傍にいる安心感に配慮していることが見てとれる。</p>		

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員は、子どもの成長に合わせて、必要以上の指示や制止をすることなく見守る姿勢で支援している。目指している目標が達成できた時には賞賛し、失敗した時にはさりげなくフォローし、本人が自身で乗り越えるよう援助している。

地域小規模ホームでは、一人ひとりの子どもの思いを4人の職員が共有し、現状や進捗状況を把握し達成するよう見守り、時にはサポートしている。

朝の起床から登校までは時間的に余裕はないが、一人ひとりに声を掛け、体調の変化などに気を配っている。また夕食を作りながら、子どもが学校であったことを話し職員が聞いており、信頼関係を築いていることが見てとれ、小舎になったメリットであると共に園の特長と言える。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各ホームに公文のドリルを備え、小学生を中心に学習する時間を作っている他、中学生の希望に応じて英語の公文のドリルを準備して学ぶ機会を設けている。

また、それぞれにクラブ活動や塾に通っており、本人の希望、要望に合わせて支援していることが見てとれる。ゲームだけでなく、中庭のデッキは子どもたちの遊び場となっており、職員が見守る中、遊びに没頭する子どもの姿がある。

各ホームには絵本や図書を設置しており、それ以外にも管理棟に図書コーナーがあるため、読書好きな子どもが利用している。

学習ボランティアとして大学生が訪問していた時期があるなど、子どもの成長に合わせた学習や遊びの場を保障していることが確認できる。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員は園を退所後に子どもが困らないように、挨拶や礼儀だけでなく、掃除や洗濯、調理など社会生活を営む上で必要な知識や技術について、日常生活の中で教えている。
 地域住民の温かい支援の下、地域の行事等に積極的に参加し交流することで社会性を習得している。
 また、成長に応じて疾病管理のための服薬指導や清潔保持に関する指導なども行っていることが確認できる。
 少年サポートセンターから携帯電話の使用について講話があり、携帯電話やSNSに関して学ぶ機会となっている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

園では、月水金は炊事場で調理し、それ以外の平日は調理場で半調理したものをホーム毎に調理している。また日曜日にはホーム毎に献立を考えて食材の買い出しから行う自由献立を行っている。自由献立は実施報告書を作成し栄養士に提出しており、報告書は全ホームで回覧し、園長が確認している。
 炊事場での料理は各ホームが受け取りに来てそれぞれに食事している。献立は毎週立てており、3人の栄養士がそれぞれに担当して作成している。
 栄養士は年2回嗜好調査を行い、子どもの嗜好を把握する他、毎回の検食簿から人気のある食事を確認し、献立に反映している。改善はその都度行っており、食べ切れる量や苦手な野菜も食べられるように工夫して提供している。旬の食材を使い、食材や献立の内容について、その意味を話し、食に対する興味を持ってもらうような取組みも行っている。
 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくを基本とし、夜遅く帰宅した子どもには、各ホームで温め直して、職員が横に居て会話している。食事のマナーについては、子どもたちの将来を考え、正しく、時には厳しく指導している。
 園には、調理クラブがあり、月に1、2回行っている。年度始めに希望を募り、グループ編成している。調理クラブの目的は、社会に出て知らないことがないように、家庭で体験できることを体験することであり、男女、年齢に関わらず希望する子どもたちがお菓子などを作っている。ケーキをホールで作った時には各ホームに持ち帰り、みんなで食して楽しんでいる。栄養士は、調理が好きな子どもが成功体験を重ねていることも大切なことと考えている。
 栄養士は毎月各ホームを巡回し、衛生管理チェック表にて評価し、改善点を挙げて各ホームが取り組んでいる。栄養士が中心となり安心安全な衛生管理の下、子どもの食に関する興味を引き出し楽しい食事となっていることは園の優れた点である。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は子どもの衣服を洗濯しアイロンを掛け、時には繕い、常に清潔で心地よい衣生活となるよう援助していることが見てとれる。季節に合わせた衣替えは、クリーニングを利用しながら本人の成長に合わせてサポートしている。

衣服の購入は本人の希望を優先し、職員と一緒に買い物に出掛けることが多く、個性に合った本人らしい衣服となっている。細かい制限を設けず、本人の自己表現の場と捉えて支援していることは園の特長である。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

新しくなった5棟の建物は、男子棟と女子棟に分かれており、中学生以上の子どもには基本的に個室が確保されている。また、徒歩で5分ほどの少し離れた場所に、地域小規模ホームは、民家改修型の2階建ての建物となっており、より家庭的な環境である。

リビングや風呂等の共同の場は、担当職員が清掃しており、衛生面を保っている。子どもたちの部屋を含む日常的な掃除は、子どもたちも手伝っている。服装や日用品は、子どもたちそれぞれの所有であり、小学生以下の子どもたちは、日中はリビングや外庭に集い、一緒に遊んでいる様子が窺える。

職員が子どもと共に敷地内及び地域小規模ホームの環境づくりに努めていることは、園の特長である。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

子どもたちの健康状態は、日々の保育日誌や健康記録に記入している。子どもたちが関係している医療機関とはいつでも連絡が取れる関係を構築している。
 薬の管理は事務所内で行っており、アトピー等の皮膚疾患の塗布は、職員が対応できる際は行っている。アレルギーがある子どもは特に注意し、栄養士と連携し食事を検討している。
 精神的に不安定な子どもについては、心理士が配慮しており、随時、声を掛け面談を行っている。
 園では、医療や健康に関しても可能な限り情報を集めてはいるが、看護師がいないことから、不十分と考えている。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

男子と女子の生活する住居は別棟となっている。子どもたちの成長度合いや年齢に応じて、性に関することについては話をしよう職員は心掛けている。
 以前は、紙芝居や絵本を使い、ミーティング時に子どもたちに性教育を行う場があったが、ここ最近は実施できていない。職員についても以前は外部講師を招き、性教育についての研修を行ったことがあったが、昨今は実施できていないため、今後、他分野で必要な研修等と共に、優先順位の高いものから実施していきたいと考えている。今後の取組みに期待したい。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	○

【コメント】

暴力や不適切な行動等、現在のところ事例はない。子どもたちがそのような行動を起こさないように、日々、職員が子ども一人ひとりと向き合い、コミュニケーションを取るよう努めている。
 少し様子がおかしいと感じる子どもには職員や心理士が気に掛け、随時、声掛けや話を傾聴する場を設けている。不適切な行動が発生した場合の流れは明確であり、緊急ケース会議を開催し、検討することとなっている。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○

【コメント】

園では小舎制に進む中、子どもたちと個別に接する機会は増えたように思われるものの、一方で全体的に職員で見守っていた以前とは異なっている状況もあり、見逃していないかという不安を感じている職員が多い。
 地域小規模は少し離れたところにあるが、複数の職員で関わることで、いじめや差別の発生を見逃さないように心掛けている。園での対応が難しい場合には、センター等の協力を仰ぐこととなるため、センター等との関係構築を整備している。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

園には公認心理士の資格を有する心理士が常勤勤務しており、1日1~3人の子どもの面談、セラピーを実施している。内容によって、現場職員と情報共有を行い、更に個々の自立支援計画策定に関わっている。
 園では、ケースを発表する機会も設け、外部講師からのフィードバックを受ける場ともなっている。また、外部講師によるスーパービジョンを受ける機会も設けている。児童相談所との連携は、主に家庭支援専門相談員が行っており、子どもや保護者に対して定期的にサポートしている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

各ホームでは個室を提供しており、静かに落ち着いて学習できる環境を整えている。
 また公文のドリルを準備し、毎朝ドリルを使って学ぶ機会を設け基礎学力の定着を図ると共に、ドリルを解けたことで成功体験を積み学習への自信を付けることに繋がっている。
 小学校との連携として、小学校低学年の子どもの場合は担当する職員が連絡帳を用い、頻繁に連絡を取っている。また、小中学校は、学期ごとに個別に面談があり、子どもの現状を互いに共有している。
 登校前には忘れ物がないか確認し、未提出の文書についても把握し提出するよう注意している。
 園では、障害のある子どもが特別支援学校に通学しており、職員が登校を支援しているなど、子どもの学習環境を整え、基礎学力を高めるための学習支援を行っていることは大いに評価できる。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

園では、子どもの進路については本人の希望を最優先している。
 日頃から将来の話をする機会を作り聞き取って把握すると共に、高校生になると特にその機会を増やし個別に具体的な事例を挙げながら意向を確認し支援している。
 大学や専門学校への進学を希望する子どもには、オープンキャンパスへの参加を促し、資料を取り寄せて検討するよう指導している。
 進学が決定した子どもが安心できるよう、職員は主任支援員に相談し奨学金制度などを利用して資金を工面している。
 高校卒業や進学、就職後の生活に不安が生じることが予想される場合は、措置延長を利用し園にて生活できるよう支援している。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

アルバイトは学校の許可が出た段階で、園では園長が許可するルールがある。純心女子高等学校の練成会では1泊2日で勤労体験行事があり、奉仕活動や畑での労作活動に参加する子どもがいる。
園の位置する場所の近くにはファミリーレストランがあり、休日短時間でアルバイトしている子どももおり、社会経験の拡大に役立っている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員が月に4回の宿直時やホームを回った時に、個別面談を行っている。口頭で話せない時は手紙を書いて渡してくる子どももいる。
保護者と会話した内容は家庭支援専門相談員業務日誌に記録し、統括→主任→園長と回覧し確認している。
家庭訪問の時は、センターに連絡して確認をとり、出向く職員の選定を行っている。
子どもから実父母に会いたいという要望があると、親権者の保護者と相談し会いに行くことがある。また、児童相談所を通して調整することもある。子どもの環境や状態によって、調整外泊交流シートと称する記録簿に保護者が記入し提出しており、家庭支援専門相談員が確認している。
園として家族との信頼関係を構築し、相談に乗り支援していることは大いに評価できる。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員は、子どもの希望や様子を見ながら担当職員と共にファミリーソーシャル会議を開き、家庭復帰を検討したり、家族関係支援を行っている。

一時帰宅の後に帰園した際、子どもの様子が変わっていた時は、原因を探り保護者にアドバイスしている。困難なケースはセンターと連携し、役割分担して支援している。

親子関係の再構築に向けて、まずは子どもの気持ちと保護者の気持ちを大切にしている。特に保護者の気持ちをおさなりにせず、十分に聞き取ることに努め、それぞれの思いを否定しない姿勢で支援を行っている。

家庭支援専門相談員のたゆまぬ努力は、特筆すべき点である。